

## レフリング今日的課題研究

(ルール解説 Let's read and enjoy Laws 補足)

### 第12条 ノックオンまたはスローフォワード

スローフォワードとは、プレーヤーが前方にボールを投げるか、またはパスすることを言う。「前方へ」とは、相手のデッドボールラインの方向へ、という意味である。

#### ・スローフォワードの判定

真剣にプレーするなかで、反則プレーでゲームが切れるのは仕方ないことですが、レフリーのミスやセンスの悪さからゲームが切断されることがあるのは残念なことです。そんな時、ミスは人間のすることと済ますことができる場合が殆どですが、レフリングセンスの悪さと、それに気づいていないレフリーに閉口させられることがあります。

特に、スローフォワードについての間違っただ判定は、すばらしいプレーを抹殺してしまうものです。ナイスパスとナイスフォローを生かす最高のプレーと、反則と紙一重の差の場面での的確な判定には、十分な知識と訓練が絶対要件です。

まず、知識からはいりましょう。

1948 Case Law : “ If a player passes to one of his own team who is on a line with him parallel to the dead ball line, both players running toward the opponent's goal line, must not the pass be a forward pass in relation to the ground, owing to their forward movement. ”

走りつつ、真横 (on side) の味方に向けて真横へパスし (5~8m 先の) 地面上の位置を計測したら、少し (20~30cm) 前になっているが、それはスローフォワードの反則ではないということです。慣性の法則によってそうなるのです。

The R.F.U. decided: “ Yes, it is pointed that the definition of a throw-forward is not decided on relation to the ground, but on the direction of the propulsion of the ball by the hand or arm of the player passing the ball, which must be left to the discretion of the referee. ”

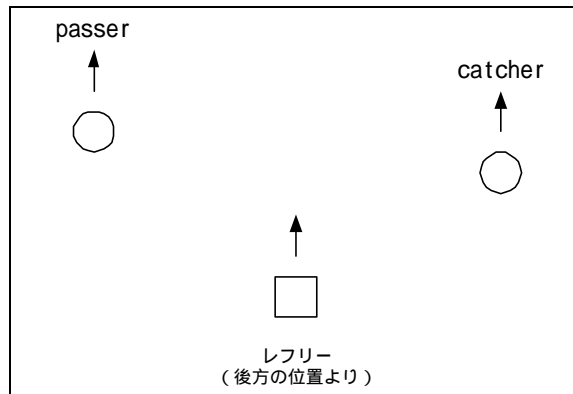
真横へのパスはスローフォワードではなく、それどころか、相手に対して一番前での最上のパスであるのに、レフリーのミス (反則とみなす) によってプレーが切られてしまう場合があるのは、本当に残念なことです。最高のパスと最高のサポートが否定されてしまうことによって、ゲームがスポイルされるだけでなく、最高のプレーをした経験と満足感を奪い、再び最高のプレーをする意欲と意識を喪失させてしまうことの罪悪度は計りしれないほど大きいものです。

パスをしたプレーヤーと受けたプレーヤーと横一線上にいたレフリーが、パスをしたプレーヤーの手や腕の振り具合を確実に見て、スローフォワードと確信をもつならばともかくとして、パスを受けるプレーヤーが横一線より前にいない場合はスローフォワードと断定してはいけません。ルールは一貫してそうになっているのですが、レフリーはプレーヤーや時には観衆の雰囲気から左右されてスローフォワードであろうと想像して笛を吹いてしまうのでしょう。競技中のプレーヤーも観衆も「勘」に「ひいき心」を加えていっているのですから、問題になりません。

知識の次に訓練です。2つあります。

1つは、よく走り、良い位置から判断する訓練です。

想像で笛を吹かないために、1つのプレーが位置によってどのように見えるかという確認が必要です。いろいろと実験することです。



上記の図の位置からは大変難しいです。

ボールの動きを見る前に、passer と catcher の両足の位置の関係を確認しなければなりません。

2つめは、プレーヤーの発言や観衆の声に惑わされない訓練です。

(1) プレーヤーの発言は、2つあります

- (a) 本当にそのように思っている場合
- (b) レフリーを牽制する場合

惑わされないだけでなく、さらに心に残してもいけないのです

(2) 観衆の声は、3つあります

- (a) よい位置から（真横）見て公平に正直にそのように思っている場合
- (b) 悪い位置なのにそう見えたから言っている場合
- (c) 味方感覚または相手感覚で言っている場合（ひいき目で正当でない場合も多い）

(2)-(a) の場合は極希で極少数で、耳に入らないものです。

要するに、惑わされてはいけません。彼等は楽しんでいるのですから気にしないことです。迎合癖がつくと、プレーヤーや観衆の声に操られるようになってしまいます。

2001.10.20

西川 義行